

袴姿のイケメン高校生、ルイ・パスツール高校で書道の実演 —ブザンソンの美術館では幻の名画と感動の対面！—

自治体国際化協会パリ事務所

ブザンソン市にあるルイ・パスツール高校(Lycée Louis Pasteur LLP)と交流を図るために10月1日(金)~9日(土)の日程で来仏した北海道松前高校の生徒達。この交流の企画及び活動支援に携わったクレア・パリでは、交流のメイン事業が行われた10月6日、7日の行程に同行し交流内容取材しましたので、その様子をお伝えします。

ブザンソン市は人口約12万人、スイスとの国境まで広がるフランシュ・コンテ地方に属し、パリからTGVで約2時間40分で行くことができ、毎年9月に行われる国際音楽祭の舞台として知られている美しい街です。ルイ14世に仕えた軍事建築家ヴォーバンにより建設された城壁は、ヴォーバンの要塞群(Fortifications de Vauban)として2008年に世界遺産登録されました。



ルイ・パスツール高校は、ドゥー川にぐるりと囲まれた旧市街にあり、学校の前を流れる美しいドゥー川の流れと活気のある街並みの風景の両方を楽しめる、恵まれた環境に位置しています。

松前町は北海道南西部の渡島半島に位置し、松前藩の政治、経済、文化の中心である城下町として栄えた歴史は古く、松前城、松前漬、桜の名所として知られています。

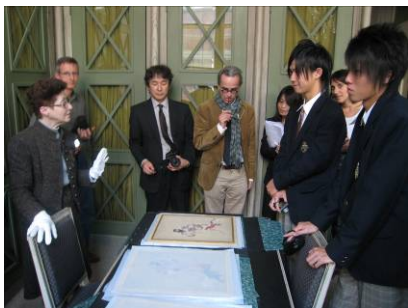
松前高校は、地元の伝統文化・歴史を学ぶ「松前学」、高度な書道教育に力を入れている「書道学」、フランスとの交流を推進する「国際教育」を大きな柱として、特色のある高校づくりを積極的に推進している活気ある高校です。今回、その3つの特色を全て生かそうとフランスとの交流事業に参加したのは、男子生徒2名(高校2年生と高校3年生)と引率2名(校長先生、英語教諭)の4人です。

遠く離れた海外に位置する2つの高校が今回なぜ交流することになったのでしょうか。

「松前藩家老であったかきざき はきょう蠣崎波響いしやうれつぞうの名画『夷酋列像』の原画11枚がブザンソン美術館(Musée des Beaux-Arts de Besançon)に存在することが26年前にわかった。なぜ、どのような経路でフランスに渡ったのか解明されていないけれども不思議な縁だと思う。このことをきっかけとし、歴史、文化、芸術を大切にす国同士、何か交流はできないものだろうか」との相談を松前町から受けたクレア・パリでは、ブザンソン市内にある高校の特徴を盛り込んだリストを作成し、その中から交流する条件に合う高校を選んでいただきました。この時、松前高校がルイ・パスツール高校を交流相手校として選んだことが、結果的には今回の交流に功を奏したといえます。書道学に力を入れている松前高校、芸術クラスも存在するほど芸術教育にも力を入れているルイ・パスツール高校、書道と絵画、芸術の形は違っても相通ずるものがあり、素晴らしい交流となりました。

10月6日（水）ブザンソン美術館訪問、ペルゴー高校訪問

午前中はブザンソン美術館への訪問です。蠣崎波響の夷酋列像は、アイヌ民族の蜂起、1789年のクナシリ・メナシの戦いで、松前藩側に付いたアイヌの酋長 12 人の姿を政治目的で描いたものだそうです。



生徒達は、その描かれた背景等も含め勉強を重ねてきたはずで、そして、資料室で長い間大切に保管されてきた、一般公開されていない貴重な名画との対面は、感動の瞬間でした。



学芸員から1枚1枚丁寧に解説していただき、生徒達は、声を出すことも忘れ、その筆使い、鮮やかな色具合等細かなところまで食い入るように見ていました。



午後は、松前高校の校長先生と共に、ブザンソン市内最大規模のペルゴー高校 (Lycée Pergaud) を訪問し、ドヴォルザーク校長から現在のフランスの教育制度や教育事情についての話をお聞きし、意見交換を行いました。



午後、松前高校の校長先生と共に、ブザンソン市内最大規模のペルゴー高校 (Lycée Pergaud) を訪問し、ドヴォルザーク校長から現在のフランスの教育制度や教育事情についての話をお聞きし、意見交換を行いました。

10月7日（木）書道パフォーマンス（ルイ・パスツール高校授業、日仏協会）、歓迎会



いよいよルイ・パスツール高校での芸術クラスにおける書道の授業です。松前藩の袴姿で登場した松前高校の両生徒は、着替える前の制服姿の普通の高校生とはまるで別人です。24人の生徒達（うち22人が女子）が見つめる中、それぞれが好きな言葉「愛」と「夢」、「温故知新」という漢字を見事な筆さばきで数枚書きました。続いてフランス人生徒達の番です。日本語を学んでいるわけではないので、いきなり「愛」や「夢」の字を書くのは難しすぎるのでは、という心配をよそに、上手な作品を次々と仕上げていきます。そして、さすが芸術クラスの生徒達、いつのまにか文字ではなく2人をモデルにデッサンを始めてしまいました。



書道のあと、松前高校両生徒が日本の文化や伝統、松前町や松前高校について、パワーポイントを使ってわかりやすく説明しました。

楽しく交流を深めているうちに、3時間の授業があつという間に終了しました。



午後は、同じ会場で一般市民向けに書道のパフォーマンスを行いました。パリ在住日本人学生の琴の演奏も加わり、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。

夜はブザンソン市にあるフランシュ・コンテ日仏協会 (Association franco-japonaise de Franche-Comté AFJFC) 主催による歓迎交流会に招かれ、地元の人達との楽しい夕食会になりました。この歓迎会には、在ストラスブール総領事も公務多忙の中、駆けつけてくださいました。



今回、行程に同行した2日間の報告になりましたが、興味を持っていただけた方は、松前高校長のブログ「学びの森 <http://manabinomo.exblog.jp/>」を訪問してみてください。この交流は地元メディアにも大きく取り上げられています。地元の意気込みが感じられます。その期待に応えるべく、渡仏準備に向けて学習を重ねたであろう彼らの姿に心を打たれました。

フランスとの交流というと英語圏ではないからと尻込みする傾向がありますが、生徒達にとって言葉の壁は何ら問題なく交流が楽しめたようです。通訳を介さないと伝わらない部分も当然ありますが、それは大人が考えてしまうような壁ではないのです。書道を起爆剤として日本の伝統文化を伝えたことにより、ブザンソン市民の中に親日派が増えたことは間違いないと確信しています。生徒同士、学校間、市民レベルの交流が、今後どのような交流に展開していくのか楽しみです。また、先に行われたジャパン・エキスポ報告でもお伝えしたように、今フランスでは日本の漫画・アニメ、文化、武道等が大人気です。そのようなことも追い風となって今回の交流が成功したともいえます。漫画・アニメの主人公のような男子高校生が、目の前で武士の袴姿で登場し書道の実演を行ったのですから。

今回訪問するにあたり、新年度が始まったばかりで多忙なスケジュールをこなさなければならぬ中、快く日本からの高校生を受け入れてくださったルイ・パスツール高校ほかブザンソン市内の学校関係者の皆さまに感謝いたします。また、交流の窓口となっていた同市の日仏協会の皆さまには、ホストファミリーの募集から始まり、ジャパン・ウィークや歓迎会の企画等お骨折りいただき、大変お世話になりました。

帰国後、松前高校の校長先生から次のような交流の成果があったと報告がありました。

- ①ルイ・パスツール高校への訪問が継続的にできるようになったこと。
- ②本校への派遣を検討していただけるようになったこと。
- ③ブザンソン市側も、この交流の重要性を認識してくれたこと。
- ④「夷酋烈像」のあり方についての意見交換ができたこと。
- ⑤日本文化の素晴らしさ、松前高校及び松前町のことをフランスで伝えられたこと。
- ⑥在校生徒達の意識が変わったこと。

このように、今後の交流に繋がる下地づくりができたことで、日仏交流の支援というクレア・パリとしての役割も、今回所期の目的を果たせたのではないかと思います。「交流」と一口に言っても、その方法は自治体規模や目的によって千差万別であると思いますが、このような、人と人との繋がりが交流の原点であると考えます。



今後も、クレア・パリでは、日本の自治体とフランスの自治体の交流を支援していきます。新しくリニューアルされた海外活動支援制度を是非ご活用ください。

CLAIR